

[調査研究報告 1]

大都市上海における 歴史遺産の活用と博物館事情

佐藤 隆
(大阪歴史博物館)

はじめに

私に与えられた役割は、中国を代表する大都市である上海を対象に、その歴史遺産が都市文化の創造にどのように活かされているかという事例について述べることです。そのために、以下に挙げる3つのテーマを設定し、9月16日～20日の日程で施設の見学や情報の収集を行ないました。今年は大阪市と上海市が友好都市の提携を結んで30周年という年にあたり、3月から5月にかけて、私が勤めております大阪歴史博物館を会場にして「上海博物館展」という特別展が行なわれました。それに関連して、私は担当として昨年、今年と、資料の借用および返却に上海に行きましたので、向こうの博物館の人たちともある程度交流があるだろうということで、このような機会が与えられたと考えています。

上海の歴史遺産、文化財は時代も幅があり、その様態も多様です。それから、活用のされ方もまた、やはりきわめて多様です。とにかく、できるだけいろいろ多くの事例を集めて報告することで責を果たしたいと思います。

今回報告する内容として、まず、私の勤めている大阪歴史博物館が難波宮・大坂城といった大阪市を代表する遺跡の中に立地する博物館ということもあるので、上海市内の埋蔵文化財、遺跡の調査の状況と、その成果が博物館にどのように活かされているかという問

題についてとり上げます。

次に、上海は長い歴史をもつ都市で、中国の伝統的な建築物や租界時代の建物などがどのように今活用されているのかという事例について紹介します。

それから、小規模なものを含めてさまざまな博物館がたくさんつくられており、なかなかガイドブックを検索しても出てこないようなものもあります。上海博物館の学芸員の方にお聞きしたりして、いくつかの博物館を見学してきました。最後には、現在計画中の上海市歴史博物館のことについて触れておきます。建設計画についても関係者の方々に少し聞いてきましたが、かなり大きな事業になるようです。

なお、文中で紹介する施設・遺跡・建造物などの位置は地図【図版1-1】を参照してください。

1 市内における埋蔵文化財の調査状況とその活用 発掘成果を公開する博物館

では、まず初めに、市内における埋蔵文化財の発掘成果を公開する博物館について見ていきます。

(1) 上海博物館の考古展示

1番目は市内中心部にある上海博物館における市内の遺跡に関する展示状況です。ポスターの写真を示しました【図版1-2】が、2003年から2004年の初めにかけては発掘成果を紹介する企画展も行なわれたとのこと。この博物館の常設展のうち玉器の展示室では、青浦区の福泉山遺跡という上海の西の郊外にある新石器時代の遺跡から出土した玉製品が展示されています【図版1-3】。これらは良渚文化という新石器時代の文化相に属するもので、当博物館で行なった特別展でも出品させていただきました。また、その周辺でも新石器時代の遺跡がかなり見つかっており、発掘調査が行なわれています。

(2) 閔行博物館

2番目は市内中心部から南西に行った閔行区にある閔行博物館です。地下鉄のターミナルにある百貨店の最上階につくられています【図版1-4】。ここは馬橋文化陳列館・中国民族楽器陳列館・崛起的新城-閔行区発展成就展という3つのコーナーに分れています。

馬橋文化陳列館は、閔行区にある新石器時代の馬橋遺跡の発掘成果を中心に、春秋戦国時代から唐・宋・元時代と、一通り時代を追った資料を展示しています【図版1 - 5】。馬橋文化とは、先の良渚文化と同様に中国における新石器時代の文化相の1つです。

中国民族楽器陳列館ではさまざまな民族楽器が展示されていましたが、馬橋文化陳列館の出土資料の中に特に注目される楽器が含まれているというわけでもないようですので、なぜこのような形で併設されているのかはわかりませんでした。

崛起的新城-閔行区發展成就展には閔行区の都市計画を示すような大きな模型があります【図版1 - 6】。こういった模型はある時期に中国で流行したのでしょうか。周辺を見渡してもあまり古い建物がなく、新しく開発された住宅地のようです。馬橋文化陳列館に併設することによって、この地区の歴史的な重要性を明らかにしたのち、このコーナーで未来への発展を示すという構成なのでしょうか。

(3) 志丹苑遺跡と新たな博物館

それから3番目は志丹苑遺跡です。これは普陀区の上海駅の西方にある遺跡で、**2002**年の発掘調査によって元時代の水利施設（水閘）の跡が検出されています【図版1 - 7】。住宅が建設されるということでボーリングを行なったところ、何か地下に構造物があるということがわかったため、発掘調査が行なわれたとのこと。来年の夏にあらためて本格的に発掘調査が行なわれる予定で、現在は埋め戻しをして調査地は保全されていました。周りは住宅地で開発が進んでいます【図版1 - 8】。

この遺跡は保存されることが決まっていますが、発掘調査ののち、その上に博物館を建てようという計画があります。たとえば覆い屋のような形にするとか、ガラス張りにするとか、発掘現場そのものを見せるような意見が出ているようですが、いろいろ解決しなければならぬ問題があると思われます。最近、発掘担当者の方々が来日され、遺跡を保存して現状公開をしている施設を見学してまわられていました。当博物館にも来られましたので、保存した遺跡のメンテナンスなどについて説明をしました。先に挙げた上海博物館や閔行博物館では考古資料は断片的であったり、遺跡との関連性が薄かったりという状況でしたが、志丹苑遺跡で計画されている博物館はサイトミュージアムとしての性格をもっていると考えられます。これからもいろいろ経験を活かせる形で関わっていくことがあろうかと思えます。

2 歴史的建造物・町並みの活用

次に、歴史的な建造物や町並みをどのように活用しているかについて、初めに建物を博物館として活用しているいくつかの事例を挙げ、それから観光地としての活用の事例を見ていきましょう。

(1) 博物館施設としての活用

・上海博物館の旧館 移転前の上海博物館（初代・二代）

先に紹介しました上海博物館が現在の建物に移転する前の初代・二代の建物を見てみます。初代の建物は、今は上海美術館として利用されていますが、もともとは**1933**年に建てられた競馬場の施設ということです【図版1-9】。二代目の建物もビジネスビルが博物館に転用されており、今は再び商業目的で利用されています。

・上海市工芸美術博物館

この建物は**1905**年にフランス租界の役人の邸宅として建てられたもので、今は博物館となっています【図版1-10】。主に2階が展示室で、1階は売店、いちばん上の3階は実際に工芸品をつくる作業場というように分れています。

・上海自然博物館（上海科技館自然博物分館）

ここは自然史を扱った博物館です。やはり租界時代の建物を利用しています【図版1-11】。剥製、標本などのコレクションがたくさん展示されていましたが、陳列ケースはかなり老朽化しており、建物そのものも使い勝手が悪そうに感じました。ただし、ここは上海科技館、上海の科学技術をテーマとした博物館の分館として位置づけられていますので、**2010**年の上海万国博覧会のころには新たな場所に移転しているかもしれません。

(2) 観光地としての活用（市内中心部）

・豫園と外灘

古い建造物や町並みの観光地への利用としては、まずは豫園を挙げておきましょう【図版1-12】。上海でここを抜きにするツアーはまずないと思いますので、ご存じの方がたくさんおられると思います。詳しい説明は省略しますが、明代の代表的な庭園です。南側の通りは上海老街と言って、古い町並みを利用したにぎやかな通りです【図版1-13】。

外灘には租界時代からの銀行など多くの歴史的建造物が並んでいます。上海の政府が一時入ったこともあります。現在はいろいろな用途で利用されています。夜に撮った写真

を掲げておきますが【図版1 - 14】、ライトアップをして観光の名所となっています。

以上の2箇所の事例はもともと観光地として賑わっていたところで、近年新たに開発された要素は少ないと思われます。今回のテーマである都市文化を創造していく場としては、核となる施設が古いものであるだけに周辺の展開を考えにくい状況かと考えます。そういった意味で、次に紹介する新天地は注目されます。

・新天地

最近の上海のガイドブックなどを見ると、たいていのものにはここの紹介が載っていると思います。力を入れて再開発されている観光スポットです。

町並みの中に入ってみると、縦横に走る路地（弄堂）の両側に西洋風の楼館や石庫門弄堂住宅（里弄）と呼ばれる中国の伝統を引いた集合住宅が見られます【図版1 - 15】。外面は保存されていますが内部は大幅に改装されており、たとえばレストランになったり、おしゃれな雑貨屋になったりと、多くは若者層に人気のあるような店になっています。石庫門弄堂住宅については、その1棟が博物館として公開されています。当時の生活用具、調度品などを配して、生活の状況を物語るような構成になっていました。また、少し南には中国共産党が第1回目の大会を開いた集会所（一全大会会址）が保存・公開されています。

新天地の一角から道路をはさんで反対側の区画では、昔ながらの建物の取り壊しが進んでいます。まだ人が住んでいて商売が行なわれている家も残っていますが、背景の近代的な高層ビルと比べると対照的な光景です【図版1 - 16】。新天地は町並みを保全しながら中を改装して生まれ変わらせるという、高層ビル建設とは異なった形の再開発として、今後各地で似たような展開があるのではないかと思います。

また、衡山路や淮海路といった新天地の周辺の大通り沿いにも租界時代の建物がいくつか残っています。ただし、繁華街として新しい店やレストランがどんどんつくられていて、そういった看板やネオンが建築の雰囲気や損ねているように思います。町並み全体としての統一感を出すにはある程度の規制が必要ですが、上海では難しいかな、とも感じました。

・多倫路文化名人街と魯迅記念館

次は北の方に目を向けて、多倫路文化名人街、およびその北の魯迅記念館に話を移します。このあたりは租界時代に日本人が多く住んだところで、魯迅の故居も残されています。書店や骨董店が多く、あまりにぎやかではありませんが、落ち着いた雰囲気の町並みです【図版1 - 17】。ガイドブックにも紹介され、観光スポットにもなっています。ただし、2

階より上には洗濯物が干してあったりして、今の人々の生活が見えてしまい、やや残念な気がします。一步違う路地へ入ると全然関係のない普通の町になっていて、ある限られた一面だけがこういう形で残されているということがわかります。

そこから北に少し行くと魯迅記念館があります。魯迅の生涯や業績を紹介し、遺品や著作が展示されています。

・龍華寺

仏教寺院としては龍華寺を挙げておきます。市内中心部の南寄りにある三国時代の呉の孫権が建てたという伝えがある寺です【図版1 - 18】。参拝する多くの人々で賑わっていました。8角で7層ある龍華塔は宋代以降に再建されたとのこと。寺を出て道路をはさんで南側に建っています【図版1 - 19】。上海にはいくつか寺院がありますが、観光客が訪れるところというよりは、市民の信仰の場という性格の方が強いようですが、この龍華寺はそのなかでも大規模な寺院であり、ホテルが併設されていることなどから挙げておきました。

(3) 観光地としての活用(郊外)

・松江区の史跡

閔行区からさらに南西に行くと松江区があります。この地区で見学した歴史遺産からお話ししましょう。

まず、方塔園は松江博物館に隣接する庭園で、いくつかの歴史的な建造物をまとめて見ることができます。北宋代の9層の塔【図版1 - 20】や、明代初期の洪武年間につくられた大レリーフ【図版1 - 21】、清代の建物などがありました。

また、少し離れた所に唐陀羅尼經幢という石塔が立っていました。形がいびつで、地下から全部掘り出されたものを組んだらしいので、もしかしたら復元が本来の状態と異なるのかもしれませんが。唐代のものということで、松江区でいちばん古い文化財であると説明を受けました。

寺院としては仏教寺院の西林禪寺とイスラム教寺院の清真寺を見学しました。前者の西林禪寺には8角7層の円応塔という塔があります【図版1 - 22】。明代の初期に建てられたもので、最近解体修理をされたということで、塔に納められた仏像類や玉製品などがその際に多量に発見され、上海博物館の出版物で紹介されています。後者の清真寺には仏像がないモスクや各所に書かれたアラビア文字などからイスラム教の要素が見てとれました。

以上の文化財は観光地として大々的に整備をされているわけではないのですが、これからそういう展開をどのようにしていくかが課題でしょう。市内中央部からもそれほど遠くないので、これから開発が進んでいくのではないかと思います。

・朱家角（水郷古鎮）

朱家角は青浦区にある明代以来の水郷です。水路が縦横にめぐらされており、それに沿って家が建てられています。その町並みをそのまま保存して、まだ中に人が住んでいるのですが、観光地として公開されています【図版1 - 23】。

入口で料金を払って入りますが、その左側にはもう一つ門があり、ここには町に住んでいる人のためにフリーパスの門があります【図版1 - 24】。町の中には店がかなりあります。もともとは人が住んでいたところなので、そんなに店が多かったわけではないのですが、観光化してきたことで、住人が家でお店を始めることがかなり多くなったとのこと。これについては上海市当局も頭を痛めていると聞きました。また、庭園や役人の家、清代から続いている郵便局などが見学できますが、それぞれに入るたびにお金を払わされました。もともとは入口でもらった入場券ですべてまわられたらしいのですが、これも観光地化の影響かとのことでした。

紹介した朱家角の他にも、このような古鎮は上海郊外にいくつかあり、ガイドブックによく出てくる周荘や、もっと西に行った浙江省には烏鎮という水郷古鎮もあります。烏鎮は以前に見学する機会がありました。同じような形態の水郷を保存していますが、観光地化の進み具合には差があるように思われます。

3 市内の新たな博物館施設

最後に、近年つくられた博物館施設をいくつか紹介し、それから新たに建設される上海市歴史博物館の計画についてお話しします。

（1）業種ごとの博物館

上海城市規画展示館は上海市の都市計画について展示をしている所で、上海博物館の北東、すぐ近くの所にあります。上海市の全体を想定してつくった広大な都市模型がありました【図版1 - 25】。

浦東区にある上海市銀行博物館には上海における銀行の歴史や銀行に関わる資料が展示されています。訪れたときは定休日でしたので、中は見学できませんでした。浦東地区にある新しい銀行ビルの中につくられているとのことですが、特に看板が出ているわけではなく、一般に公開するという形態ではないようです。文化財の雑誌などには紹介されていますが、申し込めば見学できる資料館といった性格でしょうか。このような業種別にその歴史などを紹介する博物館は楊浦区にもいくつかあり、制水博物館、水産博物館、煙草博物館などの施設がつくられています。これらも今回は見学できませんでしたが、後にお話しするこの地区の再開発と関連してくると思われまます。

(2) 新設される上海市歴史博物館

現在、上海に関する歴史を展示している施設は、浦東区のシンボルともいえる東方明珠塔の1階部分にある上海城市歴史発展陳列館です。新石器時代に始まり明・清時代、そして租界時代に大きく発展した上海の歴史について模型を中心に展示しています。大阪歴史博物館に来られた方は7階に近現代の展示を見られたと思いますが、ああいった展示をより人物をリアルにして、スケールをはるかに大きくしたものといえるでしょう【図版1 - 26】。

新たに建設される予定の上海市歴史博物館はこの施設の後をうけて計画されている施設です。今回の調査で上海を訪れる数日前に建設予定地が決定したと関係者から聞きました。予定地は楊浦区の、さきほど名前を挙げた制水博物館の近くだそうです。楊浦区は戦前の工場やかなり古い住居が密集しているところで、付近を少しまわってみましたが、これからの再開発をどのように計画して進むのかが大きな課題になると思われました。

さきほどお話ししたように、楊浦区には戦前からのさまざまな産業に関わる施設があり、そのなかには博物館としてその歴史を展示した施設がつくられ始めています。上海博物館発行の雑誌に、周辺にある歴史的な建造物がいくつか紹介されていました。私が見ることができたのは、もとの上海市政府の建物【図版1 - 27】と、旧上海市博物館、旧上海市体育場門の3箇所です。いずれも残されてはいますが、点在しており、紹介記事がなければ関係者以外はわからない状況です。これらの建造物などを含めて、新設される上海市歴史博物館を核として楊浦区のこのあたりが文教地区として整備されていき、個別の博物館が連携し、ネットワークを築いていく必要があります。

また、もう1つの問題として交通アクセスの整備があります。地下鉄の延伸の予定など

はまだないようですが、観客動員をはかるには公共交通機関は欠かせないと思われます。それから、せっかく川の辺に建築するのであれば、外灘から河川交通を利用してシャトル便を運行させるというのも良い考えではないかと思っています。

おわりに

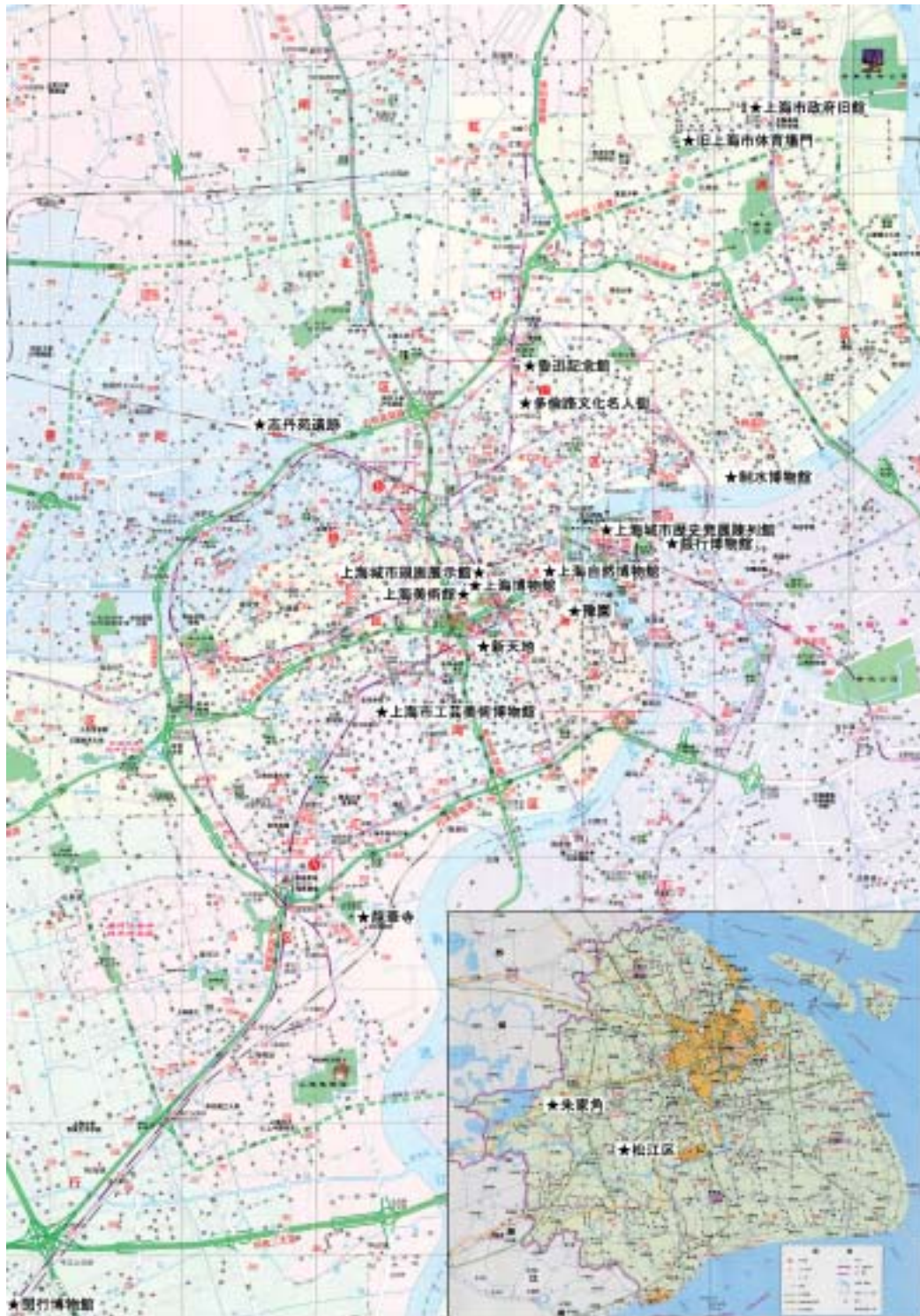
最後に、調査に訪れた際に私が泊まっていた国際飯店というホテルを紹介しておきます【図版1 - 28】。上海市の関係者がもうすぐ文化財指定したいと言われていたほど建物自体も歴史のあるもので、私がお世話になった上海博物館の孫さんが、子ども時代はこのホテルが上海でいちばん高い建物だったと話しておられました。今後も外観は保ちながら内部を改装するとか、歴史的な景観をできるだけ残していく取り組みが必要でしょう。

博物館施設や歴史的な町並みをいくつか見ていきましたが、有機的なつながりがまだあまりできていないように思います。また、どこに行けば全体の状況がわかるのかといった中核となる博物館の役割や博物館どうしのネットワーク、情報システムづくりがこれからの課題だと考えられます。

今回は事例の紹介に終始しましたので、大阪における都市文化創造という最終的な目的に対しては、まだ有効な考え方を提示するには至っていません。しかし、展覧会によってつながりのできた上海博物館と今後さらに交流を深め、最後に触れたように、今回の調査でいくつか情報を得た上海市歴史博物館の建設準備中に何らかの形で関わっていくことによって、大阪市と上海市の文化的な関係を発展させていきたいと考えています。

《附記》上海での調査にあたっては上海博物館の孫峰氏にさまざまな便宜をはかっていただきました。志丹苑遺跡の発掘成果については同博物館の宋建・何繼英氏、新天地の建造物については上海市文物管理委員会の譚玉峰氏、上海市歴史博物館の建設計画については同博物館副館長の杭侃氏より有益なご教示を得ました。また、歴史的建造物の位置付けについて当博物館の同僚である酒井一光氏よりご教示を得ました。他にも多くの方々よりご配慮・ご協力を賜りました。記して感謝の意を表します。

佐藤報告 図版（写真）



1-1 上海市の地図



1-2 (1) 上海博物館



1-2 (2) 上海博物館の展示ポスター



1-3 上海博物館の玉製品展示状況



1-4 (1) 閔行博物館



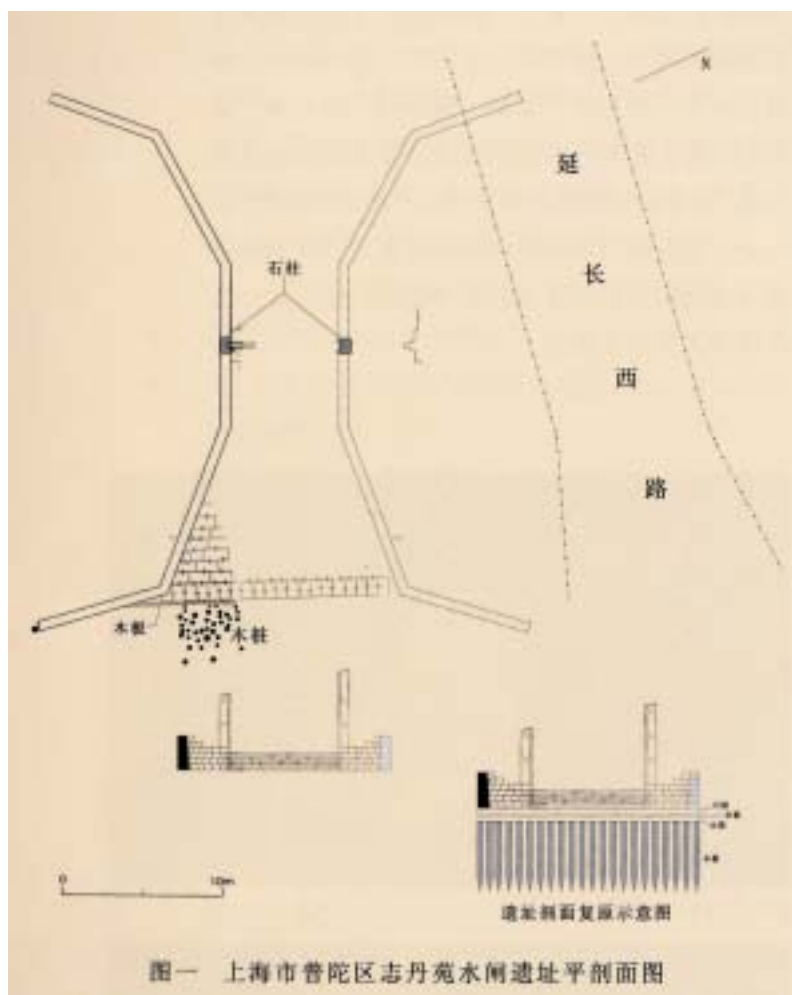
1-4 (2) 閔行博物館



1 - 5 馬橋文化陳列館



1 - 6 崛起的新城 - 閔行區發展成就館



1-7 志丹苑遺跡の遺構
 (『上海文博論叢』第3輯、2003)



1-8 志丹苑遺跡とその周辺



1-9 初代の上海博物館（現、上海美術館）



1-10 上海市工艺美术博物館



1-11 上海自然博物館



1-12 豫園



1-13 (1) 上海老街



1-13 (2) 上海老街



1-14 外滩（夜景）



1-15 (1) 新天地



1-15 (2) 新天地

1-15 (3) 新天地



1-16 新天地周辺の再開発



1-17 (1) 多倫路文化名人街

1-17 (2) 多倫路文化名人街





1-18 (1) 龍華寺



1-18 (2) 龍華寺

1-19 龍華塔





1-20 方塔園、9層の塔



1-21 同、大レリーフ



1-22 (1) 西林禪寺の円応塔



1-22 (2) 西林禪寺の円応塔



1-23 (1) 朱家角 (水郷古鎮)



1-23 (2) 朱家角 (水郷古鎮)



1-24 朱家角 (水郷古鎮) の入口



1-25 (1) 上海城市規画展示館



1-25 (2) 上海城市規画展示館の
上海都市模型



1-26 (1) 上海城市歴史發展陳列館



1-26 (2) 上海城市歴史發展陳列館



1-27 上海市政府旧館



1-28 国際飯店ホテル